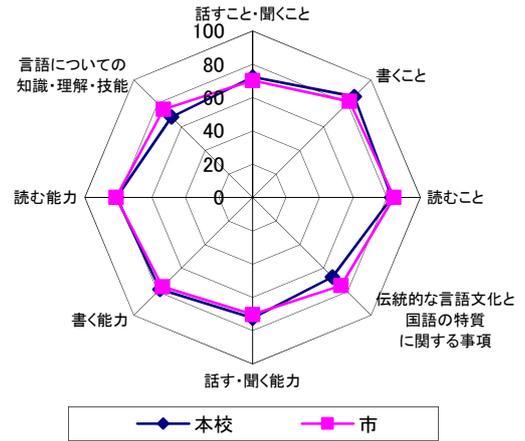


# 宇都宮市立清原北小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	72.4	70.3	68.2
	書くこと	85.7	81.7	80.6
	読むこと	83.0	84.3	84.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	67.5	74.7	72.7
観点別	話す・聞く能力	72.4	70.3	68.2
	書く能力	78.1	76.0	74.1
	読む能力	81.1	81.3	81.1
	言語についての知識・理解・技能	68.4	74.9	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○平均正答率は、市の平均を上回っており、話し手の意図を考えながら、話し合いの内容を聞くことができている。 ●与えられた情報から話し合いの観点をふまえて、意見を一つにまとめる提案をする問題で十分に答えられない児童が多い。	・国語の授業をはじめ、学級活動などを活用し、話し合いの司会などを行うことで、意見をまとめる経験を積み重ねていく。 ・会話をするとき相手に話していることの要点を整理しながら聞くよう指導する。
書くこと	●平均正答率は、市の平均正答率を上回っているが、グラフから読み取った事実を書けていない児童が多かった。	・社会の学習なども含め、グラフを読み取る練習をし、読み取ったことから自分の考えを整理し、書く練習をする。 ・作文をするときの条件に合わせて書くことができない児童もいるため、作文だけでなくいろいろな場面で条件に合わせるという活動を取り入れていく。
読むこと	○物語文の中に、きちんと書いてある内容は的確に読み取ることができている。 ●説明文の読み取りは市の平均正答率とほぼ同じであるが、物語の読み取りは、やや下回る。特に場面の描写から登場人物の心情を読み取ることに課題が見られた。	・普段から想像力を働かせて考えたり、人の様子や表情から相手がどんな気持ちなのかを考えたりする場面を設けていく。 ・場面を説明している言葉などの意味が十分に理解できていないこともあるため、使い慣れない言葉などの意味を確認するなど言語力を高めていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●漢字の読み書きの平均正答率が、市の平均正答率を下回っている。また、同音異字の問題の正答率が低く、使い方や意味を正しく理解できていないことが分かる。	・これまでに習った漢字を復習していく。漢字が増えてきた中学年くらいから復習し、定着させていく。同音異字の問題については、頻繁に使うものを中心に漢字や意味を確認し、使い分けできるようにしていく。